

2014年5月7日

GE ヘルスケア、ポイントオブケア領域用の小型携帯超音波診断装置 2 機種を発売

GE ヘルスケア・ジャパン株式会社は、小型携帯超音波診断装置の 2 シリーズにおいて、既存機種を大きく技術的に進化させると同時に、日本の医療課題を解決するソリューションを盛り込んだ上位機種として「Venue 50(ヴェニュー フィフティ)」、「LOGIQ e Premium(ロジック イー プレミアム)」の 2 機種を 2014 年 5 月 7 日(水)より販売開始。

■日本で年々高まる“ポイントオブケア”のニーズ

近年、医師が患者の病室や外来、災害・救急などの現場で、患者のそばで直接診断・処置を行う“ポイントオブケア”のニーズはますます高まっており、これを実現する上で、小型携帯超音波診断装置の果たす役割は大きいといえます。迅速な診断・治療が必要とされる救急領域はもちろん、日帰り手術や早期離床への要望の高まりを受け局所麻酔やペインマネジメントのための神経ブロックが多用されるようになっている麻酔科領域・外来などでも、医療安全を支援するため超音波ガイド手技の導入が進みつつあります。特に整形外科においては、超高齢社会を背景に“高齢者の痛み”領域全般の診断ニーズが増加しており、骨以外の筋・腱・靭帯といった軟部組織の損傷や異常を、医師がその場で手軽かつ的確に診断、そして治療にも活用できる設置場所を選ばない小型携帯超音波診断装置の需要は年々高まっています。

■従来の小型携帯超音波診断装置の枠組みを超える技術革新

GE ヘルスケア・ジャパンでは 2002 年に本格的ノートブック型小型携帯超音波装置「LOGIQ Book(ロジック ブック)」を他メーカーに先駆けて世界で初めて市場に投入。それ以降、LOGIQ、Vivid(ビビッド)、Voluson(ボルソン)の各シリーズでコンパクト性を十分に発揮するノートブック型小型携帯超音波診断装置を世に送り出してきました。これらの製品は、院内での検査にとどまらず、その先進機能の屋外への持ち出しも可能にした画期的な装置として、以降、小型携帯超音波診断装置市場の技術革新を牽引する役割を果たしてきました。今回発売を開始する小型携帯超音波診断装置の 2 機種は、これまでの実績をもとに、日本の医療現場の課題・ニーズを解決するために、その領域を代表する医師が臨床トレンドや製品開発に関して協議する GE ヘルスケア主催の Medical Advisory Board における過去数年にわたる意見を踏まえて開発されたもので、様々な現場での超音波によるポイントオブケアの導入を可能とし、医師・患者さん双方の利便性・安全性向上に寄与することが期待されています。

■業界初フルタッチスクリーンを搭載。“簡便・迅速・的確”な診断をサポートする「Venue 50」

2009年に市場に投入された「Venue 40」シリーズは、GEの高い画像撮影技術をベースに、整形外科、麻酔科や集中治療室など、それまで超音波診断の利用頻度が低かった診療科の医師にもシンプルな操作で使えるよう設計されたモデルです。GEヘルスケア・ジャパンはこれらの装置及び学会や著名な医師とのパートナーシップを通じて、超音波経験の少なかった医師に対しても超音波の有用性を訴求するとともに、ポイントオブケアの市場の拡大をリードしてきました。今回上位機種として投入する「Venue 50」は、日本初となるフルタッチスクリーンを搭載。利用する場面・用途に応じて様々な設定の切り替えが可能となり、1台で整形外科外来、麻酔科領域、救急領域のいずれにも対応できる汎用性を兼ね備えました。従来から評価されていたシンプル・スピーディーな操作性をさらに向上し、救急や集中治療、病棟やベッドサイドなど、様々な現場での迅速な診断を可能にするとともに、局所麻酔手術や関節痛への疼痛緩和ケア時の神経ブロックや血管穿刺時における正確性を高め、患者さんにとってのより安全・安心な医療の実現に貢献します。

以上